

先端テクノロジー・データ利活用ユースケース創出支援事業 事例報告書

WEB3による介護士デジタルキャリアパスポートサービスについて

株式会社SRA東北

2026年3月12日

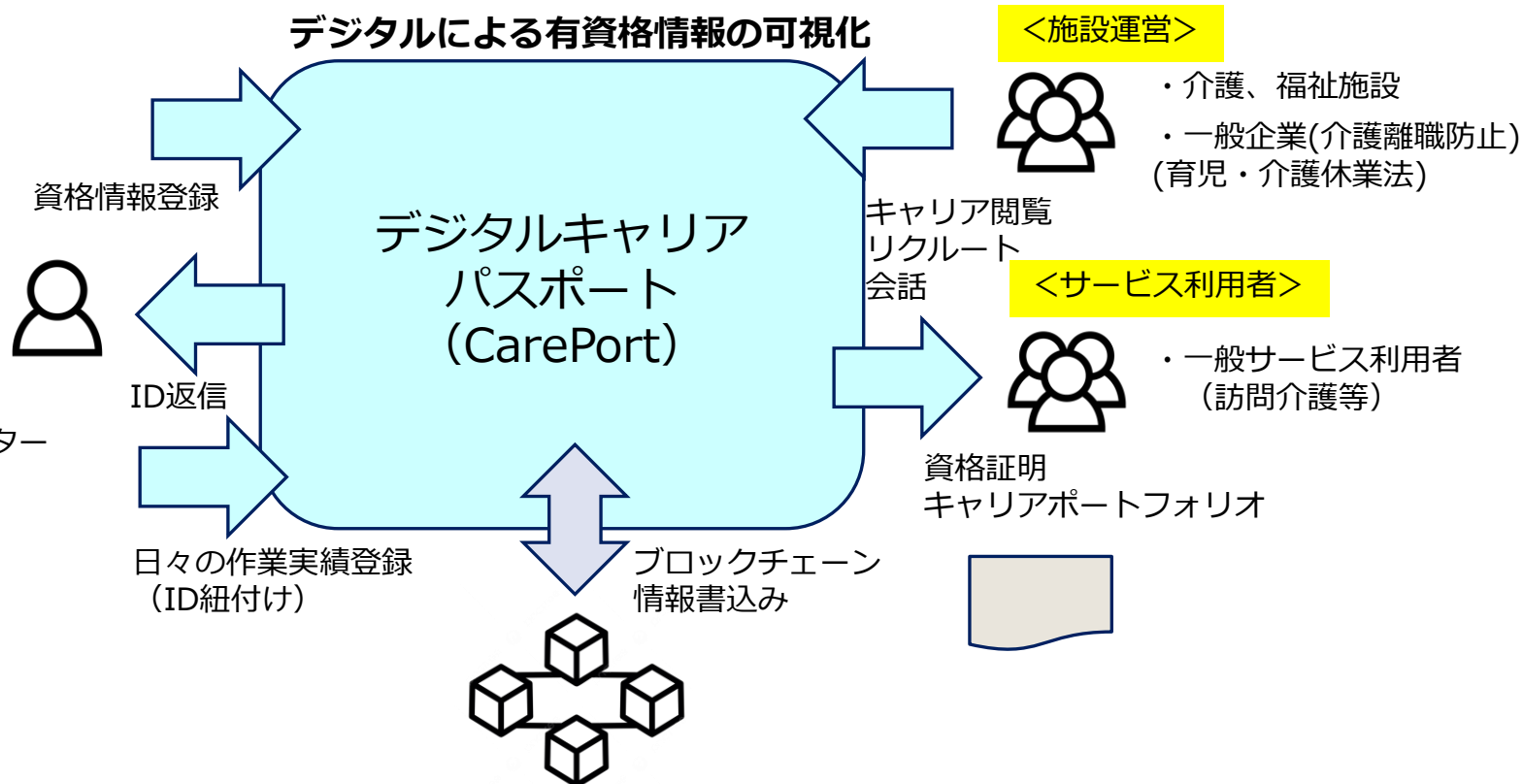
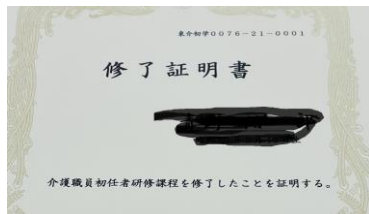
提案概要

- ・介護有資格者のキャリア可視化、介護業界の人材流動を目的とした、システム構築とサービスの事業化を実現する。

凡例：登場人物

<有資格者>

- ・介護職員初任者研修
- ・実務者研修
- ・介護福祉士
- ・ケアマネジャー
- ・認定介護福祉士
- ・介護予防運動指導員
- ・レクリエーション介護士
- ・福祉住環境コーディネーター
- ・介護食士



要約

タイトル	Web3による介護士デジタルキャリアパスポートサービスについて		
会社名	株式会社SRA東北		
1. 想定ユーザーの抱える課題及び解決方法 <課題概要> ・介護有資格者のキャリア可視化、介護業界の人材流動性 <主な課題 4 点> ・介護職のスキル・実績が定量化・可視化されにくい ・採用時に資格確認・職歴確認に時間と手間がかかる ・現場での努力（OJT、スキル習得）が記録・評価されにくい ・人材が移動・転職する際にキャリアの証明が困難 <解決方法> ・保有資格データを電子化し、作業スキルと作業実績を紐付けを行い、可視化を実現する。可視化されたデータをキャリア証明とする。	2. 実証実験等の実施内容 <実証実験内容> 実施方法：3点 ・福祉施設の有識者に開発した専用アプリケーションをインストール頂き、実業務の中でアプリ操作を頂く。 ・保有スキル（紙ベース）の電子化を行い、第三者が検証できるVC（Verifiable Credential）としてシステム化を行う。 有識者には保有資格の電子登録を実施頂き、日々の作業記録を入力頂く。 ・作業記録を有識者の経験値として蓄積を行い、自身のキャリアポートフォリオとして活用を頂く。	3. 実証実験等の結果 <参加有識者：10名> 対象者となる有識者にはアプリケーションをインストール頂き、保有資格の登録、作業登録を実施頂いた。 一方でアプリケーションのインストールと操作方法に対象者から福祉事務所に相談、問合せがあり、対応に苦慮をした様子 作業情報に個人情報（バイタル等）が含まれる為、フィルタリングのレベル調整に関する課題発生。（継続審議中） 有識者からはキャリア証明の有意義の評価を頂きました。例えば転職する際には活かして行きたいとの意見を得られましたが、所属する施設にはリスクとして捉えられる為、開示情報のバランス考慮が必要。	4. 今後の方針・展開 今回の実証実験から、福祉施設、有識者共に、本格的な人材のマッチング機能のニーズが高い結果となりました。 来年度に向けて、有識者人材マッチングの機能実装の計画、他社（SENDAI X-TECHでの接点）とのシステム連携を実施致します。 仙台を中心とし、宮城県内の福祉事業者へ横展開を行い、サービス提供地域の拡大を進めます。 また、福祉事業者に関する情報集約が期待できる事から、例えば福祉用具扱う企業とのシステム連携を実施し商圏拡大を実施致します。

想定ユーザーの抱える課題

<福祉有識者が抱える>

日本の介護業界は、超高齢化社会の進行とともに年々需要が高まる一方、慢性的な人材不足と高い離職率に直面しています。厚生労働省の報告によると、介護職の有効求人倍率は常に高水準で推移しており、特に地方部では人材確保が大きな課題となっています。

その一因として、以下のような構造的課題が存在しています。

- ・介護職のスキル・実績が定量化・可視化されにくい
- ・採用時に資格確認・職歴確認に時間と手間がかかる
- ・現場での努力（OJT、スキル習得）が記録・評価されにくい
- ・人材が移動・転職する際にキャリアの証明が困難

想定ユーザーの抱える課題 (ヒアリング結果)

有資格者のキャリアパス可視化の前に、資格情報の紙媒体運用による弊害

<業務効率面の弊害>

- 更新・確認作業に手間と時間がかかる（人事異動・シフト調整のたびに紙ファイルを探す、複数拠点だと郵送・FAXが発生）。
- 必要な情報を一覧・集計できず、資格保有状況の把握や加算要件の確認が属人的になる（Excel等へ毎回手入力が必要）。
- 紙の再提出依頼・写しの取り直しなど、職員・事務双方に二重三重の作業が発生する。

<コンプライアンス・リスク面の弊害>

- 資格喪失や更新漏れをリアルタイムに把握しづらく、無資格配置や加算要件未充足のままサービス提供してしまうリスクが高まる。
- 紙の保管方法によっては、個人情報保護（資格証の氏名・登録番号など）の観点で漏えい・紛失リスクが大きい（鍵付き保管・閲覧権限管理が形骸化しやすい）。
- 必要書類の保存期間や保存方法に不備があると、行政指導・監査時に改善指導や行政処分の対象となり得る。

<人材マネジメント面の弊害>

- 職員の保有資格や研修履歴が一覧化されないため、配置最適化・キャリアパス設計・資格取得支援制度の運用がしづらい。
- 資格取得支援制度（受講料補助や特別休暇付与など）の適用判断・実績管理が紙ベースだと煩雑で、制度利用のハードルが上がる。
- 組織として「どの分野の有資格者が不足しているか」を定量的に把握できず、人材戦略（採用・育成計画）が感覚頼みになる。

<利用者・家族対応面の弊害>

- 利用者や家族からの「担当者の資格確認」要望に即応しづらく、紙ファイルを探す時間がかかる。
- 資格証コピーの扱いが現場判断に任せやすく、個人情報保護と説明責任のバランスを取るためのルール整備が後手になる。

<DX・制度対応面の弊害>

- 介護情報基盤など、今後のデジタル連携（資格情報のオンライン確認・CSV連携）を前提とした仕組みに乗りやすく、事務負担軽減の恩恵を受けにくい。
- 人手不足の中で業務効率化が求められているにもかかわらず、紙運用がボトルネックとなり、他のICT化（シフト管理・勤怠・人事評価システム等）との連携が断絶している。

解決方法

デジタルキャリアパスポートシステムのサービス提供により、抽出した下記課題の解決を目指します。

<キャリアの可視化>

CarePortは、DID（分散型ID）およびVC（検証可能な資格証明）技術を活用したWebプラットフォームである。介護職員が資格情報を登録するとDIDが発行され、日々の作業実績とIDを紐付けてブロックチェーンに記録することで、改ざん不可能な資格証明とキャリアポートフォリオが自動生成される。

<有資格のデジタル化>

資格の有効期限や更新研修の期日はシステムが自動管理し、アラートで通知するため、無資格配置や加算要件未充足のリスクを根本から排除できる。ブロックチェーンへの記録により改ざんが技術的に不可能となることで、不正請求につながる構造的脆弱性も解消される。

<人材流動に向けた保有資格の一元化>

職員は自身の資格情報の開示範囲を自らコントロールできる自己主権型の設計により、個人情報の漏洩リスクも排除される。施設側は全職員の資格保有状況を一覧管理でき、配置最適化・採用判断・育成計画をデータに基づいて行えるようになる。

システム操作イメージ

CarePortシステムはスマートフォンアプリ版、Web版の2種類で提供致します

- <主な機能>
- ・有資格者ユーザ情報
 - ・保有資格
 - ・作業実績
 - ・チャット
 - ・QRコード表示



システムURL : <https://fukusi.help/>

施設側の認証情報と照合し
検証結果を表示

システム操作イメージ

<主な機能>

- ・有資格者ユーザ情報
- ・保有資格
- ・作業実績
- ・チャット
- ・QRコード表示



作業実績



作業情報はブロックチェーン上に登録されます

実証実験等の実施様子

<解決方法>

主に一般社団法人、全国地域表性社会福祉支援協会本部及び福祉現場にて、システムを活用した実証実験を実施。



実証実験後アンケート結果

ポジティブな回答

<転職・就職活動面>

「ポートフォリオを提示するだけで、転職時に複数の前職事業所へ実務経験証明書を依頼する手間が減ると思う」
「過去に廃業した施設に勤めていた。今回は実績も消えない仕組みがあり、実績が消えない事はよいと思う」

<資格・キャリア管理面>

「資格の更新期限が近づくと自動でアラートが届くため、更新研修の申込を忘れるミスがなくなる」
「これまで自分でも把握しきれていなかった複数の資格・研修修了歴が一覧で確認でき、自分のキャリアの棚卸しができそう」
「日々の作業実績が積み上がっていくため、介護福祉士試験の実務経験証明に必要な従事日数をリアルタイムで確認できる」

<現場・利用者対応面>

「訪問介護の現場で初めてお会いする利用者・家族に、スマホ一つで資格証明をその場で提示でき、信頼につながりそう」

<職場・待遇面>

「蓄積されたキャリアポートフォリオをもとに上司とキャリア面談ができ条件の交渉ができそう」
「私は口下手ですので、客観的に実績表示ができる事はありがたい」
「資格情報や実績が客観的なデータとして可視化されることで、口頭での自己アピールに頼らず正当な評価が期待できる。」

実証実験後アンケート結果

ネガティブな回答

<操作・技術面>

「スマホの操作が苦手なのに、毎日アプリで実績を入力しないといけないのは負担が大きい」

「電波が悪い施設内や訪問先でアプリが使えず、記録が後回しになってしまう」

「ログインパスワードを忘れたとき、紙なら即座に確認できたのにシステムだと復旧に時間がかかる」

<プライバシー・情報管理面>

「利用者や施設側にどこまで情報が見えているのかわからず、知らない間に個人情報が流出していないか心配」

「退職・転職後も過去の実績データが残り続けるのであれば、削除したいときに削除できるのか」

<業務負担・運用面>

「日々の作業実績をその都度登録する時間が取れない。ただでさえ現場は人手不足で忙しい」

「紙の資格証を持参すれば済んでいたのに、スマホを忘れたり充電が切れたりすると資格証明ができなくなる」

「システムの入カミスや登録漏れがあったとき、誰がどのように修正・承認するのかルールが不明確」

今後の方針・展開

ネガティブな意見を踏まえ、機能改善を進める

<ITリテラシーの壁への対応>

操作手順を最小化したシンプルなUI設計を徹底し、初回登録は施設担当者がサポートする「導入支援プログラム」を整備する。紙の補助マニュアルも併用し、デジタルに不慣れな職員が取り残されない設計とする。

<現場負担の増加懸念への対応>

- ・既存の勤怠管理システムや介護記録システムとのAPI連携を優先的に整備し、「別途入力が不要」な自動連携を検討する。
- ・作業実績はスマートフォン利用を減らし、音声のみで作業登録が行える仕組みを構築を検討する。
- ・資格証明はQRコードや番号提示でもバックアップ対応できる代替手段を検討する。

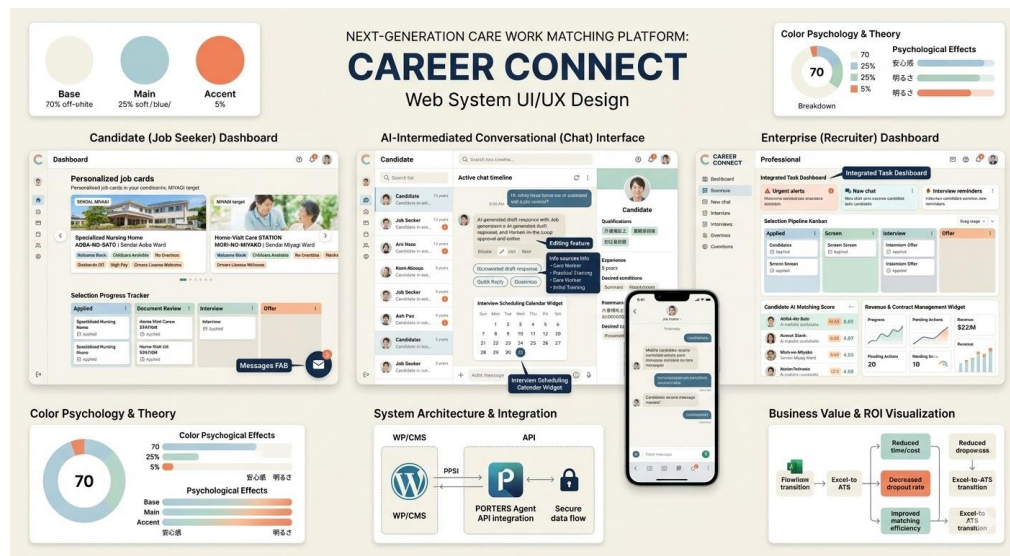
今後の方針・展開

機能追加に関して業務日誌生成でバイタルデータとの連携ニーズがあり、機能追加の継続中

業務日誌												
令和 8 年 2 月 25 日 水曜日					天気 晴れ		生活相談員		記録者			
管理責任者名					Ⓞ		Ⓞ		Ⓞ			
勤務職員名					Ⓞ		Ⓞ		Ⓞ			
利用状況	介護保険利用者数	自我利用者数	通所方法			利用者食事	健康状態の確認	口腔指導	減算			
			利用者送迎往路	の高利用者から	利用者送迎復路				送迎減算	短時 ※1回利用		
人数	12		2	10	2	12	12		10			
通所介護	名前		バイタル				食事		加算			
			体温	血圧		脈拍			老年性(減)	入浴	送迎減算	送迎
		36.5℃	121	/	71 mmHg	70 回/分	主 100% 副 100%				○	
		36.5℃	119	/	60 mmHg	64 回/分	主 100% 副 80%				○	
		36.5℃	119	/	75 mmHg	67 回/分	主 100% 副 100%				○	
		36.3℃	135	/	90 mmHg	66 回/分	主 100% 副 30%		○		○	
		36.5℃	136	/	74 mmHg	92 回/分	主 0% 副 0%				○	
		36.5℃	148	/	76 mmHg	45 回/分	主 100% 副 100%				○	
		36.9℃	100	/	65 mmHg	61 回/分	主 100% 副 70%				○	
		35.9℃	97	/	64 mmHg	56 回/分	主 100% 副 100%		○		○	
		36.5℃	135	/	86 mmHg	70 回/分	主 100% 副 80%				○	
		36.1℃	140	/	98 mmHg	68 回/分	主 100% 副 100%		○		○	
	子防通所介護		36.6℃	130	/	87 mmHg	74 回/分	主 100% 副 100%				○
		36.3℃	95	/	67 mmHg	75 回/分	主 90% 副 100%			○		

今後の方針・展開

1. 有資格者のマッチングに高いニーズ、来年度のに向けてマッチングサイトの構築準備中(基本設計進行中)



2. 産学連携について

・来年度以降のサービス連携の準備中

(1) 東北大学「myo (ミオ)」(東北大学のビジネスコンテスト優勝)

軽度認知障害 (MCI) 向けサービスとの連携

(2) 株式会社VISTA社(仙台 X-TECHによる繋がり)

介護タクシーシステム連携